

2010年2月25日

札幌市長 上田 文雄 様

(社) 北海道自然保護協会
会長 佐藤 謙

藻岩山頂展望台の「修正案」の再見直しを求める緊急要望書

2月18日の新聞報道によりますと、上田市長は、藻岩山頂展望台に関する修正案に反対している自然保護団体との「合意形成はきわめて難しい」「ハード面ではこれ以上の議論はしない」として、「修正案で着工する」との意志表明をされた旨が伝えられております。しかし、この修正案で進められるならば、藻岩山を「21世紀の環境文化都市・札幌のシンボル」として位置づける札幌の将来にとって大きな禍根を残す、そのように私たちは大きな懸念を持っております。

私たちが懸念する問題点を以下にまとめますので、上田市長におかれましては、藻岩山と札幌市の将来のため、ご自身によるご英断を下されますよう、切にお願い申し上げます。

記

1. 藻岩山頂展望台の再整備を考える際、藻岩山の魅力を失わせないことが基本

藻岩山は、「きわめて多様な樹種からなる森林生態系、しかも都市に隣接した原始林」という貴重性によって、1921年、その北斜面が国の天然記念物として北海道第一号の指定がなされた国民・道民の貴重な財産であり、札幌市民からは親しみやすく、かつ崇高な自然として敬愛されている山です。藻岩山はまた、先住民族アイヌにより「いつもそこに上がって見張り、物見をするところ」(インカルシベ)と呼ばれ、2月13日のシンポジウムでアイヌの方が話されていたように、特に山頂はアイヌにとって神聖な場とされています。このように、貴重な自然とアイヌ文化は、ともに藻岩山の大きな魅力になっており、私たちはこれらの魅力を壊さず後世に残していく義務があります。

藻岩山はさらに、自然にふれあう場として多くの市民や一般観光客に愛されており、年間70万人近くの利用者があります。そのような藻岩山頂において360度の眺望を楽しむことができる「展望台」それ自体は観光施設として否定されるものではありません。しかし、その施設建設によって自然景観の素晴らしさなど、藻岩山の魅力を壊していけないことも当然のことです。

したがって、藻岩山における観光を進める際、まず、藻岩山の魅力を失わない自然環境の保全を考え、その上で魅力をどのようにアピールし、どのように深く知ってもらうのか、利用ソフトの検討が必要です。藻岩山の魅力をどのように現代から後世に残し伝えていくかについてのソフトが合意されるならば、その結果として利用施設の建設というハードを考えるという手順が考えられます。しかし、自然の保全と利用に関するソフトについて合意がないままハード面を先行させるという逆の順序があるとすれば、それは決して許されることではありません。

2. 札幌市による説明はまったく不十分、一度立ち止まって再検討することが必要

昨年10月、藻岩山において展望台などの再整備計画が進行中である状況を知った私たちは、自然景観を含む貴重な自然への悪影響を排除するため、「山頂展望台施設を最小限にとどめ、山頂施設の縮小を求める」「山頂に展望台は認められるがレストランや売店等は不要である」趣旨の要望を続けてきました。私たちの要望は、一貫して、藻岩山の魅力を壊さない利用ソフト面を第一に考えた上で、ハードに関して縮小方向の修正を求めたものでした。すなわち、私たちの要望は、札幌市が藻岩山再整備事業の事業テーマとして掲げた「藻岩山の原生的な森林生態系などの貴重な自然環境の保全・自然とのふれあいの場を重視する『森林と人との共生』」の原点に即したものであり、札幌市が「合意形成がきわめて難しい」と述べるほどの要望、例えば計画の白紙撤回を求めた要望ではありませんでした。

多くの市民がこの問題を知ることなく推移しておりましたが、昨年末、それが顕在化された後、札幌市と私たちの間などで幾つかの集会がもたれ、札幌市は北海道自然保護協会にも説明に来られました。これらの際、札幌市担当者は私たちの要望に一定の理解を示されたようにみられたので、私たちはある程度の期待をしていました。しかし、札幌市による今回の修正案は、山頂展望台を「展望機能」に限定してほしいとする私たちの要望に対して「レストラン機能」を最も重視し、規模も決して縮小せず、当初案とほとんど変わらないものでした。修正案を詳細に検討しますと、山頂展望台と言いながら、展望に最も良い場をレストランが占拠しており、一般観光客が眺望を楽しむには不便な構造物になっております。この修正案は、市民や一般観光客が藻岩山の魅力を得られるような利用ソフトが根拠にあったとは考えられず、レストラン利用者を優先し、レストラン経営による収入を第一に、そのためのハードを先に考えた計画である、そのように私たちは批判します。

札幌市が示した修正案のレストランは、市街地側が眺望できる展望の一等地を占めています。一般観光客はシャットアウトされており、せっかく高いロープウェイ料金を支払って山頂まで来たのに、ゆっくりと眺望する目的を達することができない不満が残ります。藻岩山では「美しい夜景」もセールスポイントになっていますが、食事とは関係なく「美しい夜景」だけを見たい一般観光客は「美しい夜景」から閉め出されることとなります。山頂展望台は、建設目的である「展望機能」が充足されるべきであり、それが山頂に必然性のない、しかも「自然とのふれあい」とは認められない「レストラン機能」の犠牲になることは大きな問題と考えます。

以上のように、私たちの意見は、藻岩山頂の施設はきわめて貴重な自然との両立、とりわけ自然景観との調和が求められるので、展望台施設は「展望機能」に限定し「レストラン機能」は除外して規模を縮小することを要望しましたが、札幌市は当初案も今回の修正案も「レストラン機能」を最も重視しており、両者の対立点が明らかになってきました。

しかも、私たちが求めた規模の縮小に対して、シンポジウム直前の新聞報道によりますと、容積が3割減になることが強調された記事が掲載されました。この報道は、札幌市の偏った情報提供に問題があったからと考えます。2月13日のシンポジウムにおける観光文化局長の説明でも、修正案は現存展望台の「容積比約72%」で「容積約28%減」になることを強調し、建物の規模を示す面積増についてはまったく言及していませんので、私たちには納得できないものです。したがって、札幌市は、建物の規模についても公平な立場から詳細に説明する大きな説明責任があります。

ところで、11月12日、12月2日、12月19日、そして12月21日に開かれた集会において、市民の意見は「札幌市の説明は拙速であるので、取りあえずは凍結し十分な説明のもとに論議を尽くしてほしい」という趣旨が大勢でした。2月13日のシンポジウムでは、市民から様々な意見が提出されましたが、「藻岩山の魅力をどう活かすかについて市民の合意形成に至る論議が不足であるので、一度立ち止まって再検討すべき」という趣旨の意見が多く出されております。以上の集会における市民の声は、不足であった札幌市の説明と利用ソフトに関する合意形成を改めて求める、「一度立ち止まって再検討」という意見が多かったため、札幌市と北海道自然保護協会の対立点も含めて、むしろ原点に立ち返った説明と再検討が求められていると考えます。

3. 「21世紀の環境文化都市・札幌のシンボル」をめざす上田市長のご英断を求めます

札幌市は、2月13日のシンポジウムにおいて藻岩山の魅力を掲げ、その魅力を札幌市民や観光客に十分に示し、後世に壊さず伝えることが私たちに課せられた義務であるとした考えには私たちが同感します。しかし、札幌市による今回の修正案は、その趣旨や目的に合致しないと考えられますので、いま、一度立ち止まって再検討せずに工事着工とした場合、藻岩山の魅力が失われる悪い結果が予測され、またレストランに重点を置いて再整備したとしてもその利用者が少なく赤字になる事態も十分予測されます。

上田市長は、2月18日の新聞で報道された「修正案で工事を着工する」という結論に至った理由を説明しておりません。何故、修正案に反対している自然保護団体との合意形成はきわめて難

しいと考えるのか、ハード面でこれ以上の議論はしないと考えるのか、それらの理由について明らかにしておりません。上田市長は、子どもの権利条約を推進するなど、民主主義を大事にする市民派として市政を運営してこられた方であると私たちは認識しています。藻岩山の魅力を守ることにしても、市長は説明責任を果たす必要があると考えます。

上田市長におかれましては、札幌市の自然のシンボルを守り続けるため、山頂展望台では「展望機能」を最も優先し、レストランなど「展望機能を阻害する施設」は遠慮させる方向で「今回の修正案」の再度見直し、一度立ち止まって再検討を行うことを緊急に要望いたします。新政権によるムダなダムの凍結・見直しなど、少し強引であるとの批判がありますが、過去を見直す新たな環境政策はおおかたの国民の賛同を得ています。上田市長におかれましては、ぜひ、長期的視点から、シンポジウムにおいて大勢の意見であった「今一度立ち止まって再検討されること」を切に要望します。もしも、立ち止まることはできないとするならば、なぜできないのか、なぜ自然保護団体との合意形成はできないのか、市民との話し合いの場を設け、「市長として説明責任を果たされること」を強く要望いたします。

このような見直しは、事業担当部局の判断を超えた政策判断であることが明らかなので、環境問題に対し特段の理解があり、大所・高所から決断できる上田市長ご自身により、「21世紀の環境文化都市・札幌のシンボル」にふさわしい内容での英断を下されるよう、お願い申し上げます。